水産科学の分野で活躍する女性たち 53

Dynamic Women@Fisheries Science 53

研究への原点と新たな日々

佐藤根妃奈

新潟食料農業大学

HINA SATONE

Niigata Agro-Food University, Tainai City, Niigata 959-2702, Japan

駆け出しの研究者であり教育者としての道も歩み出したばかりですが、気持ちを新たにしたい機会をいただきましたので私の浅い歴史をお話し、これから研究者を目指す方や仕事に悩んでいる方の励みになればと思います。

研究者には、「昔から研究者になりたかった人」から「気づいたら研究者になっていた人」まで様々ですが、男女問わず研究者とは何かを追究するということに魅力を感じて仕事に取り組む人たちだと思います。私の場合、研究職というものを初めて認識したのは大学4年生の頃で、研究室に配属されてからのことです。

もともと環境問題や内分泌かく乱物質の影響について興味があったことから、赤潮研究と環境毒性研究の2種類の研究グループからなる九州大学水産生物環境学研究室に入りました。いつでもカチカチとプランクトン数の計測音が聞こえ、合間には熱い研究論議が繰り広げられる、どちらかというと体育会系の研究室でした。そんな研究室における私の最初の研究テーマはメダカ胚に対する毒性研究で、毒性が引き起こされるメカニズムと表面には現れにくい魚体内での影響に対する興味を深めました。そして次に取り組んだテーマが、極めて強い毒性と内分泌攪乱作用を示すトリブチルスズ (TBT) の蓄積に関わる分子 TBT 結合タンパク質 (TBT-bps) の研究です。アミノ酸・遺伝子配列の解析、組換え体を用いた結合試験など多方面から調べ、魚にとっては結果的に TBT の毒性を軽減するありがたいタンパク質であることがわかりました。なかなか結果が出ず悶々とする時期もありましたが、研究を進めるに当たり必要な実験技術を大学内外の様々な場所で学ばせていただき、自分がやりたいと思う研究を本当に自由にできたこと大変感謝しています。そうでなければ研究者を目指していなかったと思います。博士課程修了後には東京大学水産化学研究室にお世話になりました。環境汚染物質が魚類に与える影響というテーマは変わらず、その傍らで学生の実験指導や企業との共同研究もさせていただきました。

内容は違っても研究したい、何かを産み出したいとの意欲を持つ人たちと仕事したり、教えたりできることは本当に楽しく、大学教員になりたいという思いが強くなりました。

そして現在は、新潟県胎内市にある新潟食料農業大学という新設の私立大学に勤めています。本学は、日本の、ひいては世界の食料産業界で活躍する人材を育成するためのカリキュラムを備えた大学です。「食」「農」「ビジネス」を一体的に学ぶことでフードチェーン全体を理解し、「アグリ」「フード」「ビジネス」の3コースで各分野の専門的な知識・技術を習得します。フードチェーンという大きな括りの中で水産業における食料生産ももちろん本学の対象です。2018年4月に開学したばかりの小さな大学ですが、地域からの期待度は大きく、また、食料産業界に希望を持って入学した学生が多くいます。教員も学生の伸び代に期待して教育しようとする熱心な方が多い印象です。本学は実習授業が多いことも特徴なのですが、イキイキと活動する学生たちと実習で育てられた野菜を見るたびに元気をもらっています。

最後に、働く女性研究者にメッセージを送るとするのなら、私が心掛けていることは常に冷静であることと、自分の体力を把握することです。特に周りが男性ばかりで、この半年間は自分の感情の起伏と体力の無さに悔しい思いをすることがありました。けれど自分の内面と体力に相談して、ちょうど良い働き方を見つけることで気持ちが楽になり、担当授業の準備、実習授業・課外活動への参加等々、慌ただしくも充実した日々を送れるようになりました。研究活動も少しずつですが始まっており、これまでに私に力を貸してくださった方々に感謝して、また、更さらなるご協力を賜りながら、新たな分野横断型研究の提案と発展に取り組んでいきたいと考えています。